

タイトでも焦らずに

イチケン 神戸の現場で

イチケンの長谷川博之社長は1日、神戸市中央区で施工している「(仮称)ニトリ新神戸DC新築工事」の現場で安全パトロールを



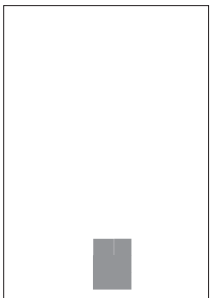
実施した。写真右。同日始まった全国安全週間に合わせて行われ、安全対策や施工状況を確認。職員や協力会社の社員に安全最優先の施工を呼び掛けた。

冒頭の安全大会で長谷川社長は、約300人の作業員や職員らを前に「工期も残り約4カ月となり、今後は新規入場者も増えてくる。一人一人がリスクアセスメントを徹底し、協力会社同士でコミュニケーションを重ねながら無事故・無災害で竣工を迎えてほしい」と要請した。パトロールでは西川圭一所長に安全対策を聞きながら、内装工事の施工状況などを確認。場

内を多数行き交う高所作業車の安全ルールの徹底などを求め、「タイトな工期でも焦らず、入念に安全施工に徹してほしい」と話した。

建設地は人工島・ポートアイランドにある敷地約3・2畝(港島4の7の1)。規模は、倉庫棟(S造4階建て)と事務所棟(同8階建て)を一体化した総延べ8万1342平方メートル。設計・施工をイチケンが手掛ける。工期は2022年11月5日まで。

西川所長は「これから酷暑と同時に仕上げ工事が本格化するので、熱中症対策に万全を期しつつ安全施工に取り組みたい」と話した。



イチケン

ルール順守を徹底 長谷川社長が安全パト

イチケンの長谷川博之社長は、全国安全週間の初日とな



長谷川社長(右)と西川所長

る1日、神戸市で同社が施工を進める「(仮称)ニトリ新神戸DC新築工事」の現場を訪れ、安全パトロールを行った。西川圭一所長の案内の下、安全衛生対策などを確認した。

朝礼に代えて安全大会を実施し、長谷川社長は「災害を防ぐには、基本ルール順守の徹底が必要。作業前に手順の確認と危険予知を実施し、安全を確保していこう」と呼び

掛けた。
その後、コンクリートによる床面舗装が完了しつつある建物内を中心に、現場の進捗と安全衛生対策を注意深く巡視した。

巡視後、長谷川社長はパトロールの総括として「全国安全習慣のスローガン通り、急がず、焦らず、怠らずを徹底し、無事故・無災害で工事を終えてほしい」と述べた。

西川所長は工事について「安全確保と工期厳守、品質担保すべてを成立させる。今後、熱中症対策にも気を配りながら工事に取り組んでいく」と話した。

同計画はニトリの新たな物流施設となる、事務所と倉庫などから構成される施設の新築工事で、規模はS造4階一部8階建て延べ8万1342平方メートル。建築主はニトリで、設計施工をイチケンが担当している。工期は11月5日まで。建設地は神戸市中央区港島4-7-1。

